

大腸癌手術のため、当院に入院・通院された患者さんの炎症性マーカーと血球分画、短期および長期予後に関するデータを用いた医学系研究に対するご協力のお願い

研究・実務責任者 所属 外科 職名 医師

氏名 牧野 暁嗣

連絡先電話番号 028-626-5500

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの炎症性マーカーと血球分画、短期および長期予後に関するデータを用いた下記の医学系研究を、倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「お問い合わせ」に示した連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2009年8月1日～2019年12月31日までの間に、一般・消化器外科にて組織学的に腺癌が証明された大腸癌に対して手術を施行された方が対象となります。

2 研究課題名

承認番号 2020-72

研究課題名 大腸癌手術症例における炎症性マーカーと血球分画、短期および長期予後に関する臨床研究

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部 外科学教室 一般・消化器外科

共同研究機関

栃木県立がんセンター

済生会宇都宮病院

川崎市立川崎病院

さいたま市立病院東京医療センター

平塚市民病院

4 本研究の意義、目的、方法

全身の炎症はさまざまな癌の予後に関与するとされ、マーカーとして血漿アルブミンやCRP、血球分画を用いたスコアの有用性が報告されています。しかし報告によってその組み合わせや cutoff 値は異なり、臨床の現場での予後スコアの有用性は確立していません。また、短期予後である合併症が長期予後である生存期間に影響するという先行研究があります。そこで今回の研究では、大腸癌の予後予測因子を検索する上で、過去に報告されているマーカーを含めて網羅的に解析して新規スコアを構成し、その外的妥当性を評価します。また、予後スコアの検討に加えて、短期予後と長期予後の関係を検討します。

データを匿名化するために使用した匿名表は各施設で保管し、匿名化データのみを核施設で統合し解析を行います。

5 協力をお願いする内容

性別、治療を受けた時の年齢、大腸がんの病理所見、採血データ、術式、治療経過等患者さんへ新たに追加検査をご協力いただくことはありません。

6 本研究の実施期間

承認日～2024 年 12 月 31 日

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報はありません。氏名やカルテ番号の収集も行いません。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんのデータは、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と、匿名化したデータを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみ参照します。
- 4) なお、連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、参加の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

済生会宇都宮病院外科

牧野 暁嗣

028-626-5500